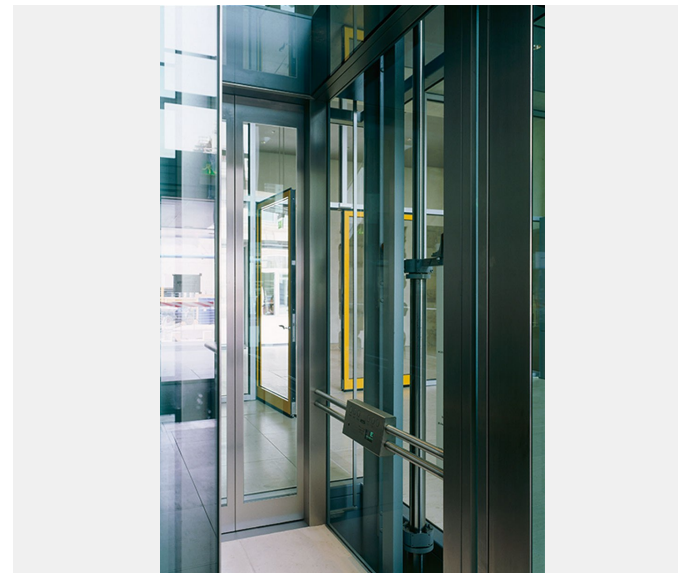


ドイツ国会の中核施設となるのが、ベルリンの「ドイツ連邦議会議事堂（ライヒスターク）」です。同議事堂は、1894年に完成したもので、外観はそのまま残し、内部が全面改装されました。巨大なガラスドームを頂く新議事堂は、英国の建築家ノーマン・フォスター氏が設計したもので、自然光が議場に差し込み、環境に配慮した造りとなっています。ここには、乗場、かご意匠とも、ガラス材を多用した7台の展望用エレベータを含む、合計22台のエレベータが活躍。中でも、かご天井も含めたフルサイズの室内展望用エレベータは大いに話題を集めており、斬新なデザインが重厚な建物と見事にマッチしています。



施主	Bundesbaugesellschaft Berlin mbH
設計・監理	Sir Norman Foster and Partners
施工	Zublin





物件名

ドイツ連邦議会議事堂

所在地

ドイツ・ベルリン

竣工

1999年

仕様

エレベータ

19台

仕様

エレベータ

機種	用途	積載 (kg)	定員 (名)	速度 (m/min)	停止階数 (階)	台数 (台)
AC-GL	乗用	3000	40	96	6	2
AC-GL	乗用	3000	40	96	6	2
AC-GD	人荷用	1500	20	96	8	1
AC-GD	乗用	2000	27	96	7	2
AC-GD	乗用	2000	27	96	6	2
AC-GD	乗用	1200	16	96	6	2
AC-GL	乗用	4500	60	96	5	2
HYDRAULIC	人荷用	850	11	48	2	1
HYDRAULIC	乗用	1000	13	60	3	1
HYDRAULIC	乗用	900	12	48	3	1
AC-GD	人荷用	1200	16	96	2	1
HYDRAULIC	乗用	2500	33	48	4	1
HYDRAULIC	人荷用	850	11	48	3	1